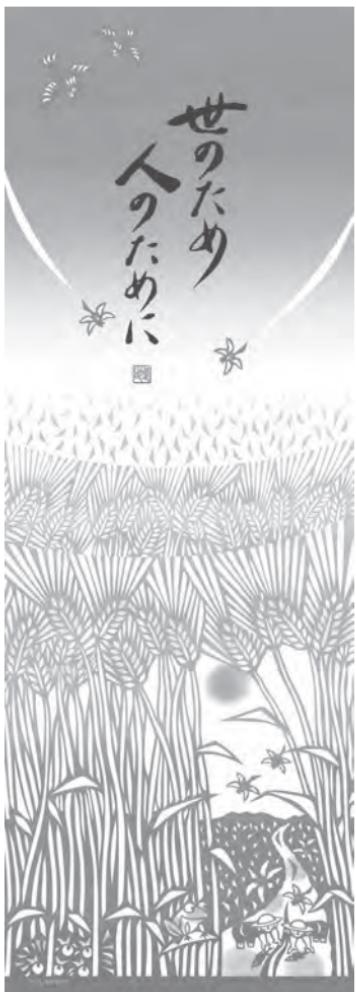


仏教法話

—心のひかり・人生のしるべ—

世のため人のために



世のため人のために

近年の地球温暖化の影響により、二〇〇〇年の大干ばつに襲われたアフガニスタンで、百の診療所より一本の用水路をと、十年をかけて約二五キロの用水路を拓き、死の砂漠と恐れられた幅四キロメートル長さ二〇キロメートルのガンベリ砂漠の約三千数百ヘクタールを緑の沃野に変え、それを契機に洪水により埋つたり壊れたりした幾つもの堰を改修して、一万六千五百ヘクタールの耕地復活と、六十五万人の生活の保障を成し遂げた人があります。

その人は、中村哲医師とペシャワール会

折しも、二〇〇一年九月には米国で同時多発テロが起きた時でした。

アフガニスタンは国土の四分の三が山岳地

百万の人々が難民となつたのでした。

水があれば、人々を救うことができる。医療団体であつた中村哲医師のP.M.S(平和医療団・日本)は、飢えや渴きは薬で治すことができないと、「水源対策事務所」を設け、数千本の井戸を掘つたものの、地下水位が下がり、井戸水の限界から、用水路を拓くことを決断されました。

用水路は、インダス川の支流のクナール川から引きます。クナール川はヒンズークシ山脈に

帶の内陸国です。人々は、ヒンズークシ山脈からの雪解けの水により農業を営む平和な暮らしをしていました。ところが、地球温暖化の影響で、万年雪がとけて雪線が上がり、雨季の降雨と雪解け水が一緒になつた洪水と、渴水期の大干ばつが村々を襲い、緑地は荒野となり、子どもたちは泥水さえも飲み、赤痢等の感染症により命を落とす子が続出し、生活の糧を失つた数

水源をもつ大河です。用水路の進路には岩盤地帯があります。発破で破壊して水路をつくるか迂回しなければなりません。洪水期に大量の土石流が発生する支流の谷を、サイフォンをつくって、いくつも越えなければなりません。日本のように十分な重機があるわけではありません。大勢の現地の人の力を必要とするたん困難な作業でした。

もう一つ、重大な困難がありました。

それは取水口です。取水口は、渴水期に水を取り入れ、洪水期には余水吐きにより洪水を制御して、村々を襲わないように、安全なものでなければなりません。流域面積からわかるように洪水の恐ろしさは日本の川の比ではありません。取水口が出来てから、大洪水により危機一髪で決壊を免れる事態が何度もありました。堰と取水口は何度も壊れて、それを教訓にして

改良に改良を重ねたのです。

洪水に耐え渴水期には水を取り入れられる取水口の建設のもとになったのは、温故知新日本の江戸時代の技術でした。日本の蛇籠は洪水時の岸壁の補強に大きな効果を表しました。そして洪水にも渴水にも耐えられる堰、それは福岡の筑後川の山田堰（斜め堰）でした。山田堰は、いたるところにある「飢人地蔵」に示されるような、享保・天明の大飢饉、百姓一揆、洪水、渴水などの惨憺たる状況を救うために、古賀百工^{ひやつこう}によつて施工されました。この技術を応用して、マルワリード取水口（ガンベリ砂漠への二五キロの用水路の取水口）や、その近隣の主な取水口が建設され、不可と言われた安定灌漑が次々に実現したのでした。これらの取水堰工事の成功は、悲願の「洪水と渴水に耐える取水システム」の実現になりました。

通水三年後の緑に覆われたガンベリ砂漠の写真があります。樹間をくぐる心地よい風がそよぎ、小鳥がさえずり、遠くでカエルの合唱が聞こえるようです。高さ十メートルに及ぶ紅柳が緑陰をつくり、過酷な熱風と砂嵐を和らげ生活の営みを広げています。

中村医師は「砂漠の奇跡」の章に次のように書いています。

PMSの農場開拓は、こうして不動の基礎を得た。濁流の取水堰から約二五キロメートル、ガンベリ砂漠は平和である。かつて一夜にして開拓地を砂で埋めた砂嵐も、一瞬にして家々を呑み込んだ洪水も、広大な樹林帯に護られています。幾多の旅人を葬り去った強烈な陽光もまた、死の谷を恵の谷に転じ、豊かな収穫を約束する。二万本の果樹の園、膨大な穀物生産、野菜畠、砂防林から得る薪や建材、多くの家畜を養う広大な草地、今や自活は可能である。悪化

の一途をたどる政情を尻目に、静かに広がる緑の大地は、もの言わざとも、無限の恵みを語る。平和とは観念ではなく、実態である。

人は誰しも幸福でありたいと願っています。しかもしも、他人はともかく自分だけは幸福でありたいと願っているとしたら、その人は絶対に幸福にはなれません。争い、そねみ、憎しみ、と言ったすべてのこの世の不幸のもとは、みな人間が自分の幸福だけを願うその利己心からおきるものだからです。正しい信仰の生活とは、自分の幸福はさておいても、世のため人のために全くそうという仏心に生きることであって、社会的地位や、人生の運不運にかかわらず、私たちが、この仏心を起こしたそのときそこに本当の幸福があるのであります。平和があるのです。

合掌